

# 清泉女子大学 発展協力会

活動のご報告

2019年6月



会長挨拶	3
2018 年度寄付金の使途	4
【学生による報告】 グローバル人材育成支援・チャレンジ支援奨学金	5
【学生による報告】 チャレンジ支援奨学金	6
【学生による報告】 学業奨励奨学金・キャンパスキャスト支援	7
2019 年度寄付金の使途予定	8



### 発展協力の皆様、卒業生はじめ本学を温かく見守って くださる皆様

平素は発展協力の諸活動にご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2018年度も卒業生を中心に、多くの方々からご寄付をいただきました。新規会員も順調に増え、皆様一人おひとりのお気持ちが大学を支える大きな力となっております。

皆様からいただいたご寄付は、「グローバル人材育成」や「チャレンジ支援奨学金」、「被災地支援をはじめとするボランティア活動」など、授業外での学生の主体的な活動を支援する取組みに使わせていただいております。授業で学んだ知識や理論は、自ら実践し活用しなければ本当には身につかないものです。当会は、学生の授業外での体験や実践、研究調査、プロジェクト等に参加する機会が少しでも増えるよう積極的に支援しています。それは、これらへの参加を通じた学びが授業での学びと相互に補完し合い、学びの好循環が生まれていくことを期待し、信じているからです。

最初に来日した聖心侍女修道会のシスター マリア・オリバ・レイナは、修道会の教育について語る中で「学生に自分の持っている力、弱さを気づかせ、その持っている力を最大限にのばすことが出来るように指導すること」が大切であると仰っています。これからの時代に、誰もが未来を閉ざされること無く羽ばたいていけるよう、今後ともそのきっかけとなる学生支援を当会活動の柱としてまいります。

以前、当会のチャレンジ支援奨学金を得て海外に出た学生から、「学びたい、挑戦したいと考えた時に、自分の考えを聞いてもらえる場所がある。それが発展協力であり、その存在をもっとみんなに知ってほしい」と言われたことがあります。当会は大学の募金機関ではありますが、それと同時に学生の活動を支援する窓口でもあります。より多くの学生に皆様からの温かなお気持ちが届きますよう、どうか今後とも変わらぬご支援のほど何卒宜しくお願い申し上げます。



発展協力の会長

きょうづか じゆん  
経塚 淳

## 2018年度寄付金の使途

皆様からの温かいご支援により、2018年度は646件、637万9,703円のご寄付をいただきました。この場をお借りして心より御礼申し上げます。これらの寄付金は、下記の教育活動支援等のために役立てさせていただきました。

### ①グローバル人材育成のための支援金（125名 193万3,500円）

TOEFL, DELE等の各種検定試験受験料補助（103名）、テンプレ大学ジャパン留学準備講座受講料補助（18名）、大学院生海外研究活動奨励金の支給（4名）を行いました。

P.5 学生による報告

### ②チャレンジ支援奨学金（12名 100万4,942円）

正課外活動における学生のチャレンジを後押しする奨学金として、2018年度は、フィリピン貧困地域でのボランティア活動、東ティモールでの絵本創作活動、平和学を深めるための南北境界線視察などの活動に支給しました。

P.5-6 学生による報告

### ③学業奨励奨学金（10名 100万円）

3年次生（各学科2名）の成績優秀者に対して、学長から表彰状とともに10万円を授与しました。

P.7 学生による報告



学業奨励奨学金授与式

### ④キャンパスキャスト等への支援（図書カード100万円分配送）

就職活動支援、オープンキャンパスや大学の広報活動支援、外国人留学生に対する支援など、従来教職員が中心となって取り組んできた活動を、キャンパスキャストが各部署等と協働して担っています。その謝礼として図書カードを配送しました。

P.7 学生による報告

### ⑤ボランティア支援（19名 38万円）

被災地支援をはじめとする各種ボランティア活動を行う学生に対して、交通費の支援を行いました。

### ⑥生涯学習に関する支援（22万6,025円）

在学生に対するラファエラ・アカデミアの受講料補助（38講座、計73名受講）を行いました。また、発展協力会の寄付金を原資とする寄付講座を10講座開講しました。



ボランティア支援を受けた学生による発表

## 発展協力会 2018年度醸出金明細表

（2018年4月1日～2019年3月31日）

（単位：円）

個人会員								法人会員		合計	
(1) 本学に在籍した者		(2) 本学に在籍した者の父母及び家族		(3) 本学現旧教職員		(4) 一般の有志					
件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
583	4,764,200	11	245,000	48	1,312,400	4	58,103	0	0	646	6,379,703

### 地球市民学科 3年 島田 星奈 さん

#### ——発展協力会の支援をどのように活用していますか。

私は一貫して「英語力向上」を目的に、これまで何度も発展協力会のご支援を活用させていただきました。ご支援を受けた活動は、①1年生の夏に参加した「NARPI(Northeast Asia Regional Peacebuilding Institute)」、②2年生の春休みに参加した語学留学、③2年生前期に参加した「テンプル大学ジャパン留学準備講座」、そして④TOEFL ITPの受験です。①②は「チャレンジ支援奨学金」、③④は「グローバル人材育成支援」を活用いたしました。

以下、それぞれの活動について簡単にご紹介いたします。

① NARPI では毎年、平和構築についての理解を深めるサマーカーンプを開催しています。プログラムは全て英語で行われ、東北アジア各国から参加者が集まります。主な内容は、平和構築に関する授業と関連施設の視察です。②セブ島のCIA(Cebu International Academy)に1か月語学留学しました。週4回、毎朝単語テストが行われ、授業は朝8時から夕方6時までの10コマです。休日には友達とマリンスポーツや観光を楽しんだり、あまり裕福でない地域に赴き、食事を提供し、子どもたちと遊ぶボランティアを行ったりしました。③は大学の授業終了後の19時半から21時に週2回、アカデミックライティングの授業を受講しました。ほぼ毎週課題が出されるため実践的に学ぶことができました。④は1年に4回、学内で行われるテストです。受験料4300円のうち3800円分の補助を受けることができます。私は英語を勉強するモチベーションを維持するため繰り返し受験しています。

I joined many activities in order to improve my English skills. These are part of them; 1. NARPI, 2. Studying English in Cebu, 3. Taking Academic English Program (AEP) course in Temple University and 4. Taking TOEFL ITP in this university. In these projects, I received financial support from Hatten Kyouryoku-kai.

Here are short descriptions of each activity.

1. NARPI (Northeast Asia Regional Peacebuilding Institute) Summer Camp on peacebuilding is held in every August. The



participants are from different countries in North Asia. They study and think about peacebuilding for two weeks in this project. The classes and field trip related to peacebuilding is the base of this project. 2. I studied English for one month at CIA (Cebu International Academy). Word test is proceeded four times a week in the morning before the class. Class starts at 8:00 and finishes at 18:00 and there are 10 classes a day. Besides the classes, I enjoyed sightseeing with my CIA friends and I joined a volunteer work. We supplied meals and played with children in one area. 3. I went to Temple University to take AEP course after my University's classes. The course starts at 19:30 to 21:00. The main study is academic writing. We have to do an assignment every week so that we can learn academic writing practically. 4. TOEFL ITP is held four times a year. It costs 4,300 yen and financial support is 3,800 yen. Therefore, I can take the test without worrying about money and maintain my motivation to study English.

#### ——将来の夢や目標について教えてください。

幼い頃から英語を使う仕事に就きたいと思っていましたが、活動を通しその想いは年々強まっています。大学生になるまで海外に行ったことのなかった私にとって、NARPI や語学留学で出会ったナショナルリティの違う方と意見を交わすことは、とても刺激的なものでした。意見交換の中でもっと自分の意見を詳しく伝えることができたら…と、何度も自分の英語力の無さを痛感しました。これまでの活動をばねにして、今後より一層英語力向上に向け頑張っていきたいと思います。そして卒業後には日本と海外をつなげるような職業に就きたいと考えています。

I have always thought that I wanted to get a job using English since I was a child. The more activities I joined, the stronger my feelings became to get such a job. I have no experience to go to other countries until entering this university, so exchanging opinion with people whose nationality is different was an impact for me. When I talked with my friend through English, I strongly thought that if I spoke my opinion in more details, I could exchange opinion more deeply! I feel that my English skills are not good enough. From these experiences, I believe that I should practice English harder than before. I hope I get a job which connects Japan and foreign countries.

地球市民学科 4年 佐藤 香穂 さん

## ——奨学金の支給対象となった活動はどのようなものですか。

私は、国際理解教育や学習支援などを行っている「NPO 法人アクション」主催の「フィリピンの貧困地域でストリートチルドレンと交流ボランティア」に参加しました。3月4日から13日までの10日間、フィリピン西部に位置するオロンガポ市マバユアン地区という貧困地域の家庭にホームステイをしながら、さまざまなボランティア活動を行いました。

新しい幼稚園の建設作業を手伝ったり、孤児院を訪れて子どもたちと鬼ごっこやボール遊びなどのアクティビティをしたりして、貧困地域に暮らす子どもたちの現状についての理解を深めました。更に、ゴミ山への訪問や、スカベンジャー（ゴミを漁って生活する人々）の生活を見る機会もあり、さまざまな境遇の人たちと接することができました。

ホームステイ先では、そこで暮らす家族や子どもたちと交流を図り、日常生活を一緒に過ごすなかで、住環境や食生活、生活習慣など、現地では分からない様々な発見や驚きがありました。また、水道や電気の供給、ごみ処理などのインフラについては、未整備な面が多く残されていると感じました。

## ——子どもたちとの交流などの現地での活動を終え、今どのように感じていますか。

フィリピンを訪れる前まで、私は、貧困＝貧しい・可哀想という固定観念をもっており、子どもたちとどう接したらよいのか不安でした。しかし実際に現地に行って、どんな境遇や背景であっ

ても「笑顔」や「元気」を絶やさず、明るく振る舞い、たくましく生きている子どもたちを見て、貧困という言葉に対するイメージが変わると同時に、この子どもたちにどのような支援が必要なのか、と改めて考える機会となりました。

## ——現地での活動を、今後どのように活かしていきたいですか。

今回この活動に参加して、中学生の頃から関心のあった途上国の貧困問題について、より深く学ぶことができました。この経験を活かし、現在行っている就職活動では、「国際協力」「途上国のインフラ整備」等の分野の会社や団体の説明会に参加したり、エントリーシートを書いているところです。実際に自身が望んでいる会社や団体に就職することができたら、途上国の人々がより快適に、かつ健康に生きることでできる社会作りに貢献していきたいと思っています。

## ——チャレンジ支援奨学金をめざす学生の皆さんへメッセージをお願いします。

私は、普段できない経験を大学生時代にしたいと思い、この海外ボランティアに参加しました。日本にだけいたら知ることのできない途上国の現状に圧倒されましたが、現地の様子を自分の目で見て感じることでできたからこそ、改めて「自分には何ができるのだろうか」と、深く考えさせられました。ぜひ皆さんも、大学生のうちにはかできない経験をたくさんしてみてください。将来必ず役に立つ日が来ると思います。



ホームステイ先ではホストファミリーの親戚や友人の訪問も多く、賑やかな毎日でした（右端が佐藤さん）



幼稚園で子どもたちと「福笑い」のアクティビティをしているところ

### 学業奨励奨学生

英語英文学科 4年 河野 美由人 さん

私は、平日の空き時間や休日に、授業に関する学習や卒業論文に関する研究活動に取り組むとともに、2つの学内のクラブに所属して課外活動を行うなど、充実した学生生活を送っています。

大学の授業には、アメリカなどの先進国が誕生した経緯や、先進国が発展途上国に与えた影響について学ぶ授業、日本の戦国時代を同時代のヨーロッパ、戦国武将の育成ゲームといった様々な観点から見る授業など、興味深いものがあります。これらの授業では、支配者と被支配者という関係や、表面的なものにとらわれず物事を多角的な視点から見ることの重要性を学びました。また、アメリカやイギリスの文学作品には、社会問題などに対する筆者の考えが投影されているものがあり、哲学的に考えることや物事の原点に立ち返ることの重要性に気づかせてくれました。これらの学びを活かし、卒業論文ではシェイクスピア作品における必要悪の存在に焦点を当てて執筆しようと考えています。

このように、私は、自分のやりたいことに挑戦できる恵まれた環境の中で、多くの学びを得ています。いただいたご支援は、研究のための観劇や参考図書の購入だけでなく、多様な経験と新たな挑戦をするためにも活用させていただこうと考えています。

今後も、授業や課外活動を通じて構築した自らの考えが正しいのか、自問自答を繰り返しつつ、他者の意見に耳を傾け、将来、社会的な問題を解決するために自分の力を活かせるよう、大学生のうちに学べることをしっかり身につけていきたいと思います。



主将として合気道部の活動に精力的に取り組みました（1列目左が河野さん）

### オープンキャンパススタッフ

スペイン語スペイン文学科 2年 長岡 華菜子 さん

私は、入学直前に参加した合格者向けキャンパス見学会で、あるオープンキャンパススタッフの先輩と出会ったことをきっかけに、スタッフに強く憧れるようになりました。その先輩から学科に関する様々なお話を伺えたことで、4月からの学生生活を具体的に想像することができたからです。

入学後すぐにスタッフとして登録し、7月にデビューを果たしました。スタッフの主な活動内容は、当日の受付、キャンパスツアー、個別相談です。

今年の2月に開催された合格者向けキャンパス見学会では、スタッフの中で私が唯一のスペイン語スペイン文学科生だったため、合格者や保護者の方からのご相談を一手に引き受けました。まだ1年生だったこともあり、答えられない質問もありましたが、実際に使用している教科書をお見せするなど自分なりに工夫し、入学後の学生生活が想像しやすくなるよう心がけました。すると、後日とても嬉しいことがありました。4月に行われた新入生向け行事に参加した際、その時の高校生が私に声を掛けてくれたのです。「清泉に入学してくれたんだ!」と、自然に笑みがこぼれました。

オープンキャンパススタッフとして活動することで、来校してくださった方たちと大学生・高校生として出会い、先輩・新入生として再会することができました。こうして未来の新入生との繋がりを持てるのが、スタッフの醍醐味だと感じています。

こうした私たちの活動に対して、発展協力会から図書カードをいただいています。読書は私の趣味の一つなので、図書カードをいただけることは大変幸せです。初めて購入したスペイン語の単語帳は今でも大切に使っています。これ以外にも多くの書籍を購入することができました。発展協力会会員の皆様のご支援に心から感謝申し上げます。

今後もオープンキャンパススタッフとして一層精進してまいります。



## 2019 年度寄付金の使途予定

寄付金の目標額を 800 万円に設定し、皆様からいただく寄付については、主に下記のとおり活用させていただきたいと思っております。なお、支出実績が予算を下回った場合は、当会の趣旨に基き、大学の財政基盤強化に寄与するため、国際交流基金に充当させていただく予定です。

① グローバル人材育成のための支援金	200 万円
② チャレンジ支援奨学金	150 万円
③ 学業奨励奨学金（成績優秀者表彰）	100 万円
④ キャンパスキャスト等への支援	120 万円
⑤ ボランティア支援	30 万円
⑥ ラファエラ・アカデミア受講サポート	20 万円
⑦ 発展協力会寄付講座	20 万円

## ご協力をお願い

皆様からのご寄付は、本学の学生支援や教育・研究活動の充実に向けた貴重な資金として有効に活用させていただきます。皆様からの温かいご支援を心よりお願い申し上げます。

お申込みは、①コンビニエンスストア、②ゆうちょ銀行・郵便局、③銀行振込、④インターネット、⑤本学財務課窓口などの方法がご利用いただけます。また、本学にご寄付いただいた場合には、税制上の優遇措置が受けられます。

お手続きの詳細につきましては、本学ホームページをご覧ください。

### 【ご寄付に関する本学ホームページ】

<https://www.seisen-u.ac.jp/support/index.php>

### 清泉女子大学 発展協力会事務局

〒141-8642 東京都品川区東五反田 3-16-21

Tel 03-3447-5551 Fax 03-3447-5493

E-mail : [hatten@seisen-u.ac.jp](mailto:hatten@seisen-u.ac.jp) <https://www.seisen-u.ac.jp/>

